

「新潟市国際交流事業」に参加し、昨秋3泊4日でハルビン市を訪れた1年生 ★★★★ さんが、冬休み前の全校集会で訪問時の様子等を紹介してくれました。写真スライドを見せながら、文化や風習の違い、たくさんの気づきや発見などを詳しく話してくれました。

私は新潟市の友好姉妹都市であるハルビン市に行き、お互いの文化を学び現地の学生と積極的に交流するという目標をもってこの事業に参加してきました。

この事業に応募した理由は、私は一度も海外へ行ったことがなく日本の文化しかわからないので、他の国



の文化も学びたいと思ったからです。また、私は保育園からずっと同じメンバーで新しい人と出会う機会が少ないので、この事業を通して新潟市や中国の人たちと仲良くなつて、コミュニケーション能力を磨きたいと思ったからです。

私はこの旅で気づいたことや驚いたこと、楽しかったことがいっぱいあるので、今回は皆さんに紹介したいと思います。

ハルビンは中国の中でも北の方で**北緯40度**の位置にあります。どの辺かと言うと、**北海道の稚内市(北海道の一番上の先端部分)と同じぐらいの位置**です。ハルビンの気候は、(私たちが行ったのは10月26日で新潟はまだ秋でしたが)最高気温5℃、最低気温-1℃という真冬の寒さでした。冬には-40℃近くになるようなとても寒い地域です。私は-1℃の時に外を歩いて観光しましたが、発熱インナーを着て何枚も重ね着をし、ダウン・マフラーを巻いても寒くて、10分ぐらいで足の感覚が無くなつきました。でも、日本のようにやーんとした寒さではなく、ハルビンは空気がカラッとしているように感じました。私は中国の高校生に「ハルビンはもう雪は降った?」と聞いたら、10月半ばぐらいに降ったと言つていて、とても驚きました。私たちが帰る日に雪が降る予報でしたが、私たちは見られなくてとても残念でした。

ハルビンはロシアと近いので、文化もロシアと中国が混ざっています。道にはマトリョーシカやロシア風の建物・お土産屋さんもありました。私たちが泊まっていたホテルも、内装は西洋の建物のようでした。

次にハルビンの土地について紹介します。ハルビンは建物同士の間隔が狭い集合住宅が多い街でした。そしてビルがたくさん建つていて、奥までずっと続いていました。私は、これから手前の方の畑を壊し、ビルをどんどん建てて増やして発展させていくのかな、と考えました。また、ハルビンの建物はすごく高く、ほとんどの建物が20~30階ぐらいありました。私たちが泊まったホテルも31階まであり、ずっと上を見上げていたので首がとても痛くなりました。街中で驚いたのは、横断歩道の信号機がなかったことです。車をよけて渡りましたが、ぶつかれば大事故になりかねないので心臓がバクバクしました。



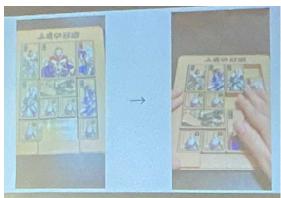
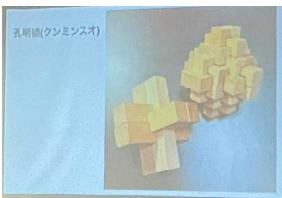
次に、伝統的な物や遊びを紹介します。(私たちは2日間かけて2つの小学校と1つの中高一貫校に行って交流してきました。)まず、これは**剪紙(ジェンジー)**というものです、赤い紙を折ってはさみで切り抜き、白い紙に貼つて飾ります。正月などのお祝いごとに飾られ、「福」や「籠」「花」などの縁起のいい柄が多いです。一見簡単に見えるかもしれません、やってみるとすごく難しく思ったように切れませんでした。

そして、次はマーブリングです。作り方は、まず、水が入っているバケツの中に好きな色の絵の具を垂らします。何も書いていない白色の掛け軸をバケツに入れ、自分の好きな模様がうつるように動かして素早くバケツから抜くと模様がつきます。

他にも、「中国結び」という、日本のしめ縄や正月飾りに似たような物があります。縁起のいい意味が込められている文字が、色々なパーツと組み合わさせてできています。そして、これは**挂軸(グウア チオウ)**という掛け軸です。金色の墨汁で「願い」「願望」という意味の文字を書きました。今回紹介したものは全て縁起物で、部屋や玄関などに飾ったりするといいそうです。



これは**孔明锁(ケンミンスオ)**といった知育おもちゃです。引っ張ったり力で外そうしたりしても外せません。頭を使って分解し、また組み立てて元に戻すという知恵の輪のような遊びです。これは集中力と知能が必



要で、左の方が簡単で右の方が難しいです。中国の小学生は、分解の仕方と組み立て方を全て覚えていてすごかったです。そして、これは**华容道 (ファーロンド)**といい、中国三国志をテーマにした超有名なパズルです。このコマをスライドさせて一番大きい四角の曹操を出口から脱出させるゲームです。とても難しい知恵遊びとして中国では昔から有名なものです。

最後に、これは毽子 (ジェンズ) という中国の伝統的な遊びです。カラフルな羽根がついていて、サッカーのリフティングのように足で蹴って落とさないようにする遊びです。これもとても有名で、学校や公園で遊んでいる大人や子供もいるそうです。また、技を競う大会もあるらしいです。

中国の学校に行ってみてびっくりしたことは、上履きがなく、靴を分けずにそのまま土足で中に入っていたことです。そして中国の子はみんな積極的で、自分から話しかけてくれる子ばかりでした。とても見習いたいなと思いました。

私たちは中国の大学にも行って、見学や体験をさせてもらいました。そこでは**虫除け効果のある匂い袋**を作りました。すり鉢とすりこぎで薬草を細かくすり、最終的に巾着に入れて保管します。薬草を細かくすると効果は強いのですが、長持ちはしません。荒くすると効果は弱めですが、長持ちはします。そのため、自分の好みで作り方を変えられます。私は長持ちしてほしいのでやや荒めにしました。今年はもう虫の出る季節が終わり、使う機会がないので、来年の夏に使いたいと思います。

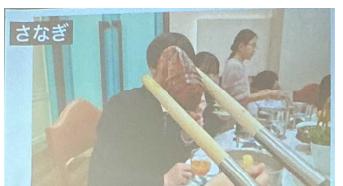


最後にハルビンの食べ物を紹介します。中国は、皆さんも見たことがあるように、回る円卓の上に料理を乗せてみんなで分け合うというスタイルで食事をします。みんなで分け合うことで笑顔が生まれて、とても楽しかったです。だから、日本でもこのスタイルが広まってほしいなと思いました。



これから紹介するのはハルビンでとても有名な食べ物です。1つ目は、**格瓦斯 (クオワース)** という、ロシアや中国東北地方でよく飲まれるもので、パンを発酵させた炭酸の飲み物で、匂いと味がパンそのものでした。この飲み物はとても有名で1日3食毎回の食事に出てきました。2つ目はこのアイスクリームです。1906年ハルビン発祥の馬迭爾 (マーディエル) というアイスクリームブランドの物で、昔ながらの味のとても有名なアイスです。甘いミルク味のアイスで、とても美味しかったです。

次に紹介するのは、私が食べて衝撃を受けた食べ物です。1つ目はアヒルのお肉です。店員さんが目の前でお肉を切ってくれて、アヒルの皮とお肉を食べたらもう美味しいすぎてびっくりでした。皮はパリパリしていて美味しいで、切ったアヒルのお肉でバラを作っていてすごいなと思いました。2つ目は餃子です。餃子は水餃子と焼き餃子がありました。日本ではタレをつけて食べますが、中国では何もつけずに食べます。驚いたのが日本との食材の違いです。キュウリや人参などが入っていました。3つ目はいちご飴です。中国でもいちご飴は有名で、行列ができていました。-1°Cの外にある冷凍庫の中に入っていたので、カチコチに凍っていて歯が折れそうになりました。いちご飴を食べたことがある人はわかると思いますが、日本と違い中国のいちご飴にはゴマが付いていて、ちょっと甘塩っぱい感じでした。新しい味なので、このいちご飴もとても美味しかったです。4つ目は**さなぎ**です。私は、虫を食べることなど人生で一度もないと思っていました。でも、せっかくの機会だし、勇気を出して食べてみました。外はパリッとして中はちょっとパサパサ、レバーのような感じでした。絶対食べない・したくないと思っていることがあるかもしれません、一度きりの人生です。少し勇気を出してみたら新しい発見もあると思うので、この気持ちを大事にしたいなと思いました。



私はこの事業を通して色々なことに気づけたと思います。日本で食べたことがない食べ物を食べて、いまだに味や食感が忘れられないし、中国の子たちと交流して言語の壁は破れるということも証明できました。また、私はこの旅で積極性の大切さを知ることができました。これからは国が違う人にも自分から話しかけて、いろんな人とコミュニケーションをとっていきたいです。この事業のおかげで日本以外の文化と触れ合って視野を広げることができました。本当にいい経験になったと思います。長くなりましたがこれで終わります。ありがとうございました。

